

全国防犯運動

あき巢ねらいの防止は

心の戸締まりから

ひと口にドロボウといってもいろいろですが、一般家庭が最も被害を受けるのは、なんとといっても「空き巢ねらい」です。

日光署管内では、今年八月までに、百四件の犯罪が発生し、そのうち九十件(八六・五%)が空き巢ねらいや自動車盗などの窃盗事件です。

今年の防犯運動の中心テーマは、

▽戸締り注意や、留守にする時の声かけ

▽自動車・自転車のカギかけ

▽自動車の中に、お金など貴金属を置かない

などです。

十一日から、二十日までの十日間、全国一斉に防犯運動が行われるのを機会に、空き巢ねらいの防止について考えてみましょう。

ドロボウは

玄関から

空き巢ねらいで目立っているのは、その約半分の四七・六%が玄関から堂々と入っていることです。次いで、窓(二四・九%)、勝手口(一二・八%)、縁側(一〇%)の順になっています。

ドロボウが玄関からどうやって入ったかをみると、被害にあった家の三五・九%が、玄関のカギをかけたままです。これでは「ドロボウさん、どうぞ」といっているようなものです。

次に多いのは、ガラス破り、錠あけ、錠破りなど、戸締まり設備の弱点をつかれたものです。

空き巢ねらい

防止五か条

- ① 出入り口や窓には丈夫なカギを、チェックしましょう。
- ② ちよつとの留守でも戸締まりを



③ お隣にひと声かけて出かけましょう

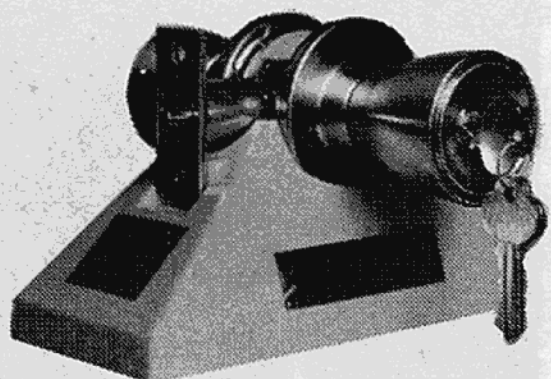
④ 留守を空き巢ねらいに悟られな

いために、日暮れまでには干し物を入れておき、牛乳や新聞などは何日分もためない工夫を

⑤ カギを牛乳箱や郵便箱に入れておかない

ねらわれやすい

円筒錠



円筒錠

空き巢ねらいを防ぐには、まず丈夫な戸締まり設備をすることが大切です。

玄関のドアには、いろいろな種類のカギが取り付けられています

明治からのあゆみ

昭和19年 ⇨ 22年

市史編さん委員会より

②67 清滝郵便局、集配局となる(昭和19年10月1日)

日光電気精銅所の、軍需人口増加に対応するため、清滝郵便局では、それまでの郵便事務に加えて、集配事務を開始した。

戦後は、人口の減少と集配事務の合理化で、昭和44年から無集配局となり、集配事務は、日光郵便局が行っている。

②68 所野第二発電所完成(昭和20年3月24日) 軍の方針にもとづき、電力事情を救済するため、関東配電株式会社は、昭和19年12月、所野第二発電所の建設に着工した。翌年3月24日完成、許可最大出力二四〇〇キロワットの発電所として、運転を開始した。(現在の最大出力は五〇〇〇キロワット) 水車・発電機は、神奈川の発電所から移設、その他の付属機器も、ほとんどが流用品であった。

②69 日光高等女学校、県立へ移管(昭和20年4月1日)

昭和2年6月開校の日光町立高等女学校は、当時「栃木県日光高等女学校」と称して、県立移管への期待は大きかったが、県当局は、学校施設の貧困、敷地問題などを理由に、許可を与えなかった。しかし後援会・同窓会・日光町が一体となって、県立移管を要望したため、創立二〇年の実績により、県は教室の増築・施設の増強・敷地の県移管を条件に、県立移管を承認し「栃木県立日光高等女学校」となった。

②70 進駐軍のホテル接收(昭和20年10月17日) 昭和20年8月15日の終戦で、日本に連合国